発行　伊丹市立少年愛護センター　NO. 391　令和3年(2021年)10月7日

センター通信

伊丹西高校 生徒会の取り組みについて

兵庫県立伊丹西高等学校
生徒会一同

昨年から広がり始めた新型コロナウイルスは収まることを知らず、私達の生活にも大きな影響を与えています。休校により行事が延期や中止されたものの、学校全体で感染症対策を徹底し、工夫をしながら行事や普段の学校生活を送ってきました。感染症対策としてマスク着用、消毒などはもちろん、図書室や食堂でのパーテーションの設置、式典等のリモート開催など、出来る限りのことを行っています。例年とは全く異なり、制限のある高校生活ですが、それでも行事を盛り上げようという動きが見られました。しかし、私達は例年通りの高校生活を知りません。何もなければ当たり前に得られたはずの日常は、私達の手の届かないところにあります。そんな制限ばかりの日常を少しでも色鮮やかなものにしたいという思いを形にするべく、私達生徒会は活動しています。

コロナ禍での行事は全て規模を縮小して行われてきました。特に大きく変わったのは文化祭（通称 西高祭）です。昨年は学校全体で巨大壁画の作成と体育館での有志や文化部の舞台発表のみの開催となりました。しかし今年度は昨年度と同様の有志や文化部の舞台発表に加え、各クラスでも展示、参加型企画、舞台発表などを行うことが出来ました。各クラスの発表を自由に見て回ることが出来たのは昨年度と大きく異なることだと思います。どのクラスもとても盛り上がり、楽しめました。特に人気の参加型企画、展示のクラスは列を成すほどでした。行事の形を変え、臨機応変に対応ができたからこそ成り立った西高祭だったと思います。

また、今年度の体育大会も規模を縮小しての開催が決定しました。昨年同様、半日開催です。基本は走競技のみで、大縄跳びと綱引きは人数制限を設けて行います。昨年度は自分の出番以外は自席で待機することとなり待ち時間が少し長く、暇を持て余す生徒が多かったように思いました。そこで、少しでも体育大会を良いものにし、生徒の思い出に残るように、生徒会種目を考えています。感染症対策を踏まえて、距離を保てる競技を考案中です。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出る中、どこまで出来るかはわかりません。しかし全校生徒のために私達は出来る限りのことをしていきます。

「当たり前の日常」、「当たり前の行事」の形が本当に大きく変わった２年間でした。私達が高校を卒業するまでに新型コロナウイルスの感染が収まることはないかもしれません。行事等も規模縮小など、感染症対策優先での開催になると思います。しかし、１年前は分散登校していた私達が今、制限なく登校出来ているのは、医療従事者や先生方など沢山の人のおかげです。その感謝を忘れず、全校生徒のためにも生徒会一同、一丸となって活動していきます。

ヤングケアラー

家庭で、両親や祖父母、きょうだいの世話や介護といった年齢や成長の度合いに見合わない家事などをしている子どもは「ヤングケアラー」と呼ばれ、その割合が、中学生のおよそ17人に1人に上ることが国の初めての実態調査で明らかとなった。ヤングケアラーの背景には、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世帯の増加、家庭の経済状況の変化といったさまざまな要因がある。こうした中で、ヤングケアラーは、重い責任や負担を負うことで、本人の育ちや教育に影響があるといった課題があり、心身の健やかな育ちのためには、関係機関等が連携し、ヤングケアラーの 早期発見・支援につなげる取組が求められている。

今般公表された「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」報告書によると、世話をしている家族が「いる」と回答した子どもは、中学２年生で 5.7％、全日制高校２年生で 4.1％という結果となった。その中には、世話をしていても自分のやりたいことへの影響は特にないと回答した子どもが半数いる一方で、家族への世話を「ほぼ毎日」している中高生は５割弱、一日平均７時間以上世話をしている中高生が約１割存在するという結果であった。本人にヤングケアラーという自覚がない者も多く、子どもらしい生活が送れず、誰にも相談できずに日々ひとりで耐えている状況がうかがえる。

学校の教職員は、子どもと接する時間が長く、日々の変化に気づきやすいことから、ヤングケアラーを発見しやすい立場にある。日頃からの子ども本人の観察や、保護者が学校に関わる様々な機会において、教職員がヤングケアラーの特性を踏まえて子ども本人や保護者と接することで、家庭における子どもの状況に気付き、必要に応じて学校によるケース会議等において関係者間で情報を共有する等の取組が、ヤングケアラーの早期発見・把握につながる可能性がある。ただ、ケアをしている子どもの実態は様々であり、家族の状況を知られることを望まない場合があることにも留意する必要がある。

また、児童委員や子ども食堂など地域や民間の目でヤングケアラーを把握する取組、学校に通えていない、または福祉事業者とのつながりがないなど、家族以外との接触のないヤングケアラーは、特に潜在化しやすいと考えられる。こうしたヤングケアラーを含め、児童委員、子ども食堂、学習支援等、地域や民間の目で発見・把握することが重要である。

参考：(令和３年５月、厚生労働省及び文部科学省が連携し、検討を進めるために発足した)
ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の 連携プロジェクトチーム報告書

(９月) (暫定値)	幼児 少学生	中学生	高校生 その他	大 人
声 か け	３９９	５	９	１１６
あいさつ	５１２	５１	８８	２２５
遊び方に関すること	０	０	０	０
犯罪に関すること	０	０	０	０
交通に関すること	１	２	２	３

（９月）相談活動	
電話相談	５ 件
来所相談	２ 件
メール 相談	０ 件

(９月) 有害図書回収状況	
有害図書	５３冊
有害AV等	２８０個

子どもと保護者のためのなやみ相談窓口

<電話相談> ☎０７２－７７０－８７４２
月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く） 10:00～17:30

<来所相談>（要予約） ☎０７２－７８０－３５４０
月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く） 10:00～17:00

<メール相談> aigo@itami.ed.jp
または、当センターHPのメールフォームをご利用ください

9月の事案 （少年愛護センターへの通報・ひょうご防犯ネット情報）

日	時刻	場所 （事案） 概要 －行為者確保・警告等があったものには☆印－
1	18:00	千僧 4（声かけ）自転車で通行中の男子中学生に対して、男 3 人が「ちょっと、そこの君、どっか行こか。」と声をかけた。
18	11:25	昆陽 3（つきまとい）徒歩通行中女子小学生に対して、男が無言で後方から自転車でつきまとった。
23	20:40	山田 1（不審者）公園内で遊んでいた女子幼児に対して、男が両手を広げて無言で追いかけた。
29	17:10	伊丹 3（声かけ）徒歩通行中の女子小学生に対して、男が「学校の門で待っているからな。」と声をかけた。

＜10月 の主な行事＞

7(木) 伊丹市少年補導委員連合会 役員会
7(木) 伊丹市少年補導委員連合会 定例理事会
11(月) 県青少年補導センター連絡協議会 理事会
12(火) 広報啓発活動 一斉補導
15(金) 伊丹市少年育成協会 常任理事会②
25(月) 有害図書回収
(中止) 第５４回兵庫県青少年補導委員大会・研修会
9月～11月（各小学校） 第２回愛護補導連絡会
10月～11月（各中学校） 第２回学校補導連絡会

＊「センター通信」へのご意見ご感想を、伊丹市立少年愛護センター（℡ 072-780-3540）までお寄せください。